

2008年頭あいさつ



洞爺湖町長
長崎 良夫

大きな飛躍の年 北海道洞爺湖サミットの成功に向けて

新年明けましておめでとうございます。
清々しい新年を町民の皆様とお迎えできますことを心より喜びを申し上げますとともに、本年も良い年となりますよう、町民の皆様のご支援、ご理解をお願い申し上げます。

昨年は、サミット開催という大きなニュースが飛び込んでまいり、国内外の注目を受け、慌しく過ぎ去った年でした。

また平成12年の有珠山噴火で分断された国道230号の新ルート開通や高速道路の新インターチェンジの開通など、噴火復興事業もほぼ完了いたし、新生洞爺湖町としての基盤づくりを推進できる環境が整いました。本年は「子年」にあたり大切な始まりの年であり、良いスタートをきれば未来は大きく開けてくると言われおります。洞爺湖町が舞台となる北海道洞爺湖サミットの成功を大きな弾みにして、洞爺湖町を広く世界へ発信できますよう努力してまいりたいと考えているところです。さて、近年国内外の情勢は政治、経済の不安要素からめまぐるしく激動しております。国内においても国際協力の問題や財

政改革の推進、社会保障費の負担など課題も多く、行き先の見通しがなかなかかきかない状況下にあります。

地方の現状も、国が進める大きな改革や様々な国際情勢の影響を受け、景気回復の兆しが見えず、灯油、ガソリン価格などの高騰や医療制度の改革に伴う医療機関での医師不足など、町民生活への不安や及ぼす影響など大変心配しているところです。目を町内に転じれば、このような大変厳しい環境の中ではありますが、洞爺湖町のまちづくりの基盤整備については、順調に進んできております。

地域の独自性を十分に生かして、「町民が安心・安全で健康に生活できるまち」、「環境に配慮したまち」、「元気で交流のあるまち」を目指して、今後とも邁進していく所存です。

有珠山噴火災害から7年が過ぎ、前述したように防災機能を備えた新国道230号トンネルの開通、それに接続する新インターチェンジが開設され、地域住民の生活や地域の振興に大きく寄与しましたが、修学旅行をはじめ、観光客の呼び戻しの課題はいまだ消えてはおりません。

しかし魅力ある観光地づくりに取り組んでいる中で、環境省ビクターセンターや併設した火山科学館の入場者数が5万人を超える盛況となっておりますことから、同センターが、洞爺湖の自然、火山遺構などを生かした広域的な連携の拠点施設として大きな役割を担い、集客への起爆剤として今後も大いに期待するところです。

農漁業は、恵まれたクリーンな農産物やホタテなどを中心とした水産資源など地場産品の販売促進や農業、水産業と観光事業との連携による起業化を進めています。その第一歩として、新たな交流施設である洞爺高台地区の道の駅が4月にオープンを予定しており、既存の道の駅「あぶた」とうや水の駅との連携を強める中で、食の面からも洞爺湖町の魅力を内外に発信していけると考えています。

洞爺湖町の財政基盤の構築は、最優先すべき課題として考えています。平成18年度から健全な財政経営を目指し、職員一人ひとりが身近な業務での徹底したコスト削減など、できることから取り組んでいます。平成19年度は行政評価システムの試行を

実施し、町が実施している事務事業の検証、改善改革案を見出し、いくこととしていきます。

国の地方財政の健全化に関する法律の施行に伴い、国、北海道の指導のもとで計画的に財政の健全化を図らなければならない団体の対象となることが危惧されていますが、町民の皆様のご協力やご理解を得ながら、財政の健全化に向けて全力で取り組んでいく考えであります。

終わりに、7月には北海道洞爺湖サミットがこの洞爺湖町で開催されます。国内外に当町をアピールする絶好のチャンスと捉え、町民一人ひとりが「おもてなしの心」を大切にして町全体でこのサミット開催を盛り上げていきたいと考えています。

町民皆様のご協力、ご理解をお願いし、皆様のご健勝をご祈念申し上げ新年のご挨拶といたします。

なお例年町民各位から年賀のご挨拶をいただいておりますが、返礼は公職選挙法に抵触することから、誠に申し訳ありませんが、差し控えさせていただきますことをご理解いただきたいと思います。